



鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第三二二号

2021.1.20
責任者
市川 麻美

二〇二一年は どんな年に…

新年を迎えて、希望を持ってスタートを切ったところでしたが、一月七日に神奈川県を含む一都三県に再び緊急事態宣言が発出されました。六日に三学期始業式を行ったばかり。昨年四月のことが思い返されます。ただ、今回学校の休校はありません。ただし、これまで以上に感染症予防対策をしっかりと行いながら安心・安全第一に学校生活を送っていきたいと思います。

「てのひら」を漢字にすると『掌』です。「たなごころ」とも読むそうです。「たなごころ」は現代まで残る古語で、もとは「手の心」だそうです。「明珠在掌」(みよようじゆ、たなごころにあり、と読みます)。「明珠」とは、その人の(その人だけの)個性・能力という意味です。「気づかないだけで、人は誰もが価値ある美しい宝石を持って生まれている、だから早く自ら気づいてそれを磨くことが大切だ」



山口県のあるお寺の住職のお話だそうです。宝石に気づかないまま送る生涯より、それに気づいて磨いていった方がはるかに豊かな人生になりそうです。多種多様な情報が常にあふれかえっている現在の世の中において、外部のことはかりにとらわれるのではなく、時には自身や身近な人間関係・家族に目を向けてみる事が大切です。

もう一つ、お寺の本堂上りの木の札に「脚下照願」とあったそうです。足をよく見て…という意味から転じて「履き物をそろえて」というお願いなのですが、本来は自分を顧みることを忘れるなという意味です。お寺に掲げられたこの二つの四字熟語は、今、このような時期だからこそ立ち止まって考えてみたい(みてほしい)と思いました。二〇二一年、どんなではなく、こんな年になりたい、という一人ひとりの思いを持って困難も一緒に乗り越えて進んでいきましょう。いつも笑顔をお忘れずに…です。



新たな決意

昨年十二月、各学年の国語の授業で書道を学習しました。一年生は文字を書く基礎となる字形、文字の大きさ、配列などについて理解して楷書で書くこと、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと、二年生では、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して書くことや楷書又は行書を選ぶなど、目的や必要に応じた書き方を判断して書くこと、三年生では、身の回りの多様な表現を通して文字を文化として認識し、その豊かさに触れながら効果的に文字を書くことなどを意識しながら学習を深めました。



学習のまとめとして、学年ごとに体育館で「席書大会」を行いました。心を落着け、真剣に書に向かうこ



とで、体育館の空気も引き締め、静寂の中で、どの筆も滑らかに進みます。新しい年を迎えるにあたり、条幅紙に大きく伸びやかに新たな決意を仕上げる事ができていました。

楽しみなこと

新型コロナウイルス感染症拡大により、学校を含む社会全般のさまざまな予定がたてづらいう状態が続いていますが、天文現象への影響はありません。今年を観察することができる月食が、五月と十一月にあります。五月二十六日は、東日本の多くの地域で、月の出とほぼ同時に食が始まり、食の終わりまでを見ることができそうです。十一月十九日は、月の出の前に月食が始まり、月が欠けたまま昇る「月出帯食」が見られるそうです。

三大流星群のうち八月のペルセウス座流星群については、極大の時刻が日本で観察しやすい時間帯であるうえに月明かりの影響もなく、たいへん良い条件で、多くの流星の出が期待できるそうです。注目の天文現象が多い楽しみな年になりそうです。

